

| | |
|----|--|
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 障がい者や高齢者等の移動制約者の公共交通利用が進まず、移動制約者の観光等の余暇活動が制限されている。また、市民の移動は自家用車利用に大きく依存しており、公共交通の利便性の向上や交通サービスの付加価値創出が求められる。 |
|----|--|

| | |
|----------|---|
| プロジェクト概要 | <p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内のあらゆる交通サービスをハンズフリーで利用(乗降判定、決済)できるハンズフリーチケットを導入 ハンズフリーチケットでは、交通機関利用だけでなく、移動目的となる医療・観光・小売等の利用決済を可能とする。 ハンズフリーチケットによる交通と施設の利用履歴に基づく精算型の割引サービス、近親者等による見守りなど交通サービスに付加価値を創出するサービスを導入 <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通利用のODデータ:今後の地域公共交通計画および事業者のデータ分析取組との連携(自動運転バス等の新規路線敷設や各交通事業者のタイヤ改正、渋滞解消等) 利用者の移動・滞在履歴:観光・地域通貨事業者等におけるマーケティング施策、移動制約者(障がい者)等の公共交通利用時の見守りサービス等 <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <p>以下施設等との企画券のデジタルチケット販売およびクーポン連携等を実証。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業施設:つくば駅周辺の飲食・小売店連携および地域通貨等連携店舗等 観光施設:つくば駅周辺の観光施設、筑波山周辺施設等 医療関連施設:筑波大学付属病院内の施設等 |
|----------|---|

| | |
|----|--|
| 効果 | <ul style="list-style-type: none"> 障がい者等の移動制約者の余暇活動の促進 自家用車から公共交通利用への行動変容による住民の移動形態の変化と地域周遊性の向上 データの利活用による事業者の業務効率改善やマーケティング施策の向上 |
|----|--|

| | |
|--------|---|
| 事業の新規性 | <ul style="list-style-type: none"> 自治体敷設のスマートモビリティ・既存交通事業者双方がシームレスに利用できるチケット技術、リアルタイムでの移動データの取得と分析活用 交通事業者・自治体・地域の観光・小売店等が連携しデータ活用を行う基盤構築 地域の観光・小売・飲食・医療施設等と連携し、事後精算による精算型の割引や見守り等、ユーザが具体的にメリットを享受される地域として多岐に渡るユーザサービスの導入 電波不感地域である山間部～市街地・屋内外まで多岐に渡る通信環境を横断し移動履歴データを収集 |
|--------|---|

| | |
|------------|---|
| 事業エリア/交通事業 | <p>事業エリア:つくば市/(交通事業者との連携は調整中)</p> <p>鉄道:首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)、筑波観光鉄道 バス:関東鉄道、つくバス、つくばね号、パーソナルモビリティ「つくモビ」 シェアサイクル「つくチャリ」</p> |
| MaaSアプリ等 | <ul style="list-style-type: none"> つくば市スマートフォンアプリ:つくロケ(デジタルチケットサービス)※仮称 企画券販売元(地域事業者、旅行代理店)等とのシステム連携(地域通貨アプリ、決済システム等) |
| データの活用等 | <ul style="list-style-type: none"> データの取得方法:事業者連携システム・運行管理システム・ハンズフリーチケットシステム等からデータ連携基盤経由で取得 データの分析活用:左記参照。OD1回/期、見守り1回/週、マーケ1回/月 |

